

科目名	社会哲学特殊研究	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>人類社会の核となり、その精神的支柱として存在し続けてきたのが宗教であるが、それは反面、人間の能力を超えたものとして人間理性では捉え難い領域であった。哲学ではこれを種々の方法により把握しようとしたが、ここではその代表的な宗教哲学者としてカントと波多野精一を取り上げ、彼らがいかにして宗教を把握し、その本質を捉えることに努力したかを考える。</p>		
到達目標	<p>社会の中心にあった宗教を哲学者たちはどのようにして把握しようとしたのか、またその本質はなんであったのかを、代表的な宗教哲学者のアプローチの仕方を学びつつ考察する。</p>		
学修方法	<p>学修の方法は、提示されたテキストを丹念に読んで、その内容を味読することが基本であるが、カントの場合は原文（ドイツ語）をしっかりと読むことが必要となる。さらにレポート作成に際して、記載された参考文献以外に先行研究文献を自分で探し読むことが望ましい。</p>		
スケジュール	<p>月1回の面談授業を行い、課題レポートや修士論文の進捗状況を確認するとともに、論文作成のための適切な指導を行う。特に中間発表の準備や紀要論文作成のための指導を中心とする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	レポートが課題通りに的確に書かれているか。
	平常評価	40%	再提出レポートへのコメントを正確に理解し、修正しているか。
履修者への要望	<p>可能であればテキストの下記原文も参考とすること。 I.Kant, Kritik der reinen Vernunft, Philosophische Bibliothek Bd.37a I.Kant, Kritik der Urteilskraft, Philosophische Bibliothek Bd.39a</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： イマヌエル・カント 教材名： 『純粋理性批判（中）』（岩波文庫，1989年）ISBN:978-4-00-336254-9 900円+税</p> <p>著者名： イマヌエル・カント 教材名： 『判断力批判（上）』（岩波文庫，1992年）ISBN:978-4-00-336257-0 900円+税</p>
	<p>既成宗教の枠を超えて宗教哲学の扉を本格的に開いたといわれるカントを学ぶことによって、今日の混迷する社会が必要としている宗教の働きとその核心へと理性的に迫ることができ、さらにそこから現代社会に不可欠な宗教の意義を再発見することができる。</p>
参考図書	<p>竹田青嗣『完全解説・カント純粋理性批判』（講談社選書メチエ，2010年）ISBN:978-4-06-258462-3 1,600円+税</p> <p>石浜弘道『カント宗教思想の研究』（北樹出版，2002年）ISBN:978-4-89-384875-8 3,800円+税</p> <p>高峯一愚『カント判断力批判注釈』（論創社，1990年）ISBN:978-4-84-600276-3 5,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>テキスト全体を読み通しカント哲学を概観することで、彼がどのように考え何を問題としたかを主体的に捉えてほしい。なお初めてこれらの哲学者を学ぶ履修者は、入門書として小牧治『カント』<人と思想シリーズ>清水書院を読んでおくことが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>宗教の主要なテーマに神の問題があるが、カントはこれを哲学的にどのように捉えたかを『純粋理性批判』の有名な神の三つの存在証明批判から一つを紹介し、かつ神という存在の認識論上の意義も考察しなさい。 留意点：カント『純粋理性批判』（中）第2篇第3章を中心に考察。</p>
レポート課題 2	<p>カントの『判断力批判』「分析論」第1章「美の分析論」で述べられている美の普遍性と何か。あるいは『判断力批判』「分析論」第2章「崇高の分析論」で人間精神の無限性（超自然的な道徳性）を語るが、それはどのようなことか。（どちらか一つを選択すること） 留意点：前者は「趣味判断」の第1様式と第2様式を中心に考察。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 波多野精一 教材名： 『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫，2012年）ISBN:978-4-00-331453-1 1,260円+税</p>
	<p>日本における宗教哲学の泰斗、波多野精一については、これまでその業績、獨創性、卓越性にもかかわらず、同時代の思想家に比べ、その評価が充分とは言えなかった。その理由の一つは彼の哲学的立場がキリスト教という枠組みの中でのものとみなされてきたからであろう。しかし彼の思想体系は、普遍的な宗教的世界とその背景をなす哲学的人間学からなり、既成宗教を超えて社会的存在としての人間と超越者の本質に迫るものをその中心としているのである。</p>
参考図書	<p>石原謙，他『宗教と哲学の根本にあるもの』（岩波書店，1997年）ISBN:978-4-00-002957-5</p> <p>石田慶和『日本の宗教哲学』（創文社，1993年）ISBN:978-4-42-323019-0 5,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>波多野精一の宗教社会思想を深く理解するために、テキスト全体を熟読し、同時に上記の参考書や同時代の日本の哲学書を読むことが望ましい。なお初めてこの分野を学ぶ履修者は、入門書として宮本武之助著『波多野精一』日本基督教団出版局1965年を参照するとよい。</p>
レポート課題 1	<p>波多野宗教哲学の方法論である「宗教的体験の反省的自己理解、その理論的回顧」とはどのようなことか。『宗教哲学序論』第3章を読み述べなさい。さらに同第4章から哲学者を一人選びその具体的例を述べなさい。 留意点：宗教の世界を解明する方法論は種々あるが、波多野はシュライエルマッハーからティリッヒへと続く宗教体験を重視する立場にたっている。</p>
レポート課題 2	<p>『宗教哲学』に述べられている「愛の神」、「力の神」、「イデアリズムの神」、「神秘主義の神」から一つ選び、その神の特徴を述べなさい。 留意点：波多野は「愛の神」を宗教の本質としている点を念頭に置いて考えると良い。</p>

科目名	社会哲学特殊研究	担当者	ササキ タケン 佐々木 健	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>社会哲学という学問分野についての基礎的な考え方を押さえながら、古典的なテキストを読む努力を通じて、私たちが生きる社会とは何か、社会の中の人間存在とは何かという問題を理論的に考察する視点を養うことを目的とする。</p> <p>社会存在としての人間に関する考え方を根本から吟味してみることが肝要である。</p>		
到達目標	<p>社会哲学における基本概念を歴史的な観点からと理論的な観点からと押さえることによって、基礎的な事項を修得し、あわせて標準的な古典的テキストを正確に解説する基礎学力の基盤を形成することを旨とする。</p> <p>テキストの読み方として、著作を、著者自身の立場に身を置いて、著者の立場に即して理解する姿勢をもつこと、同時に、そうして理解した内容を、著者の意向に沿いながら、自分以外の他者が読んで理解できるかどうかを反省しながら、平明な言葉で客観的に叙述すること。このような学問的態度の基本を学ぶことが望まれる。</p>		
学修方法	<p>文献（標準的な古典的テキスト）を精読する作業を中心に据える。</p> <p>基本としては、日本語の文献を講読する。必要に応じて、英語の文献を参考してもらうことの可能性も排除しない。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1は前期に、2は後期に、それぞれレポートを提出することが望ましいであろう。</p> <p>しかし、教材の1と2は、テーマ的に、また概念上、理論上、密接に関連しているため、レポートの内容に関しては、前記レポートは教材1だけ、後期のものは教材2のみを論じなければならない、と固定的に考える必要はない。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	課題となっているテーマについて、的確な記述がなされているかどうか、一つの重要なポイントである。文章による議論の展開の仕方が評価のポイントとなる。
	平常評価	40%	同時に、レポートという文章による作品を完成するための努力の過程、基礎作業のプロセスを重視したい。
履修者への要望	<p>基礎的な読解力、問題への学問的関心、概念把握、論理的な記述能力、等を重視する。そしてまた、そのような方面の学力を養ってほしいと願っている。そのためには時間を要するので、じっくり、腰をおちつけて課題と向き合ってもらいたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 植村邦彦 教材名： 『市民社会とは何か ―基本概念の系譜―』 （平凡社新書，2010年）ISBN:978-4-58-285559-3 940円+税
	社会哲学の中心概念の中で，古代ギリシアに端を発し，近代において中心的な位置と役割および重大な意義を担い，現代においても私たちの社会生活にかかわる基本的な問題を提起しているのが，「市民社会」の概念である。 本教材は，その「市民社会」という「基本概念」の思想史的な発展過程を明らかにし，人間の歴史においてこの概念が担う普遍的な意味を解明したものである。 この講義では，近代および現代における社会の構成原理，思想的基盤として重要な役割を演ずるものとなっている「市民社会」の概念史を，冷静に分析してその意義を探ろうとするものである。
参考図書	ここでは，とくに掲げない。履修者の関心に応じて，適宜，指示する。
履修上のポイント	対象と向き合うにあたって，教材2と取り組むための基礎作業の意味をも持つということ念頭に置くことが肝要である。
レポート課題1	教材1の第1章から第4章までの議論を読んで，古代から近現代にいたる西ヨーロッパの哲学史・思想史における「市民社会」概念の形成の思想的基礎と歴史的条件とを検討しなさい。 留意点： レポート作成者の考え・コメントは添える必要はありません。著者の議論を客観的に要約することを求める。
レポート課題2	教材1の第5章から第8章までの記述に沿って，現代における，また近現代の日本における「市民社会」をめぐる諸問題について論じなさい。 留意点： 課題1と同様

基本教材 2	
教材の概要	著者名： アダム・スミス著（水田洋訳） 教材名： 『道徳感情論』上下（岩波文庫，2003年） 上 ISBN:978-4-00-341056-1 1,020円+税／下 ISBN:978-4-00-341057-8 1,100円+税
	18世紀イギリスの思想家アダム・スミスの著作で、『諸国民の富』（『国富論』）とならぶ主著。近代「市民社会」を支える精神的原理とは何かを追究するために恰好の教材である。 表題の意味を要約すると，《わたしたちが社会の中で，隣人たちの，そして自分自身の，行為について，人間を人間らしくする，また人間社会を人間にふさわしい社会にする精神的価値に照らして，感情・情操という基盤に立って下す様々な判断（あるいは様々な判断とその基盤となっている感情・情操）に関する理論的考察（と，この考察を踏まえた体系構築のための仮説）》
参考図書	ここでは，とくに掲げない。履修者の関心に応じて，適宜，指示する。
履修上のポイント	この教材と取り組むにあたっては，「古典経済学の創始者」アダム・スミスという既成のイメージをカッコに括って，自由な発想で虚心坦懐にテキストそのものに向き合ってもらいたい。スミスその人の文章を，スミス自身の論理に沿って理解していくことが眼目である。
レポート課題1	スミス「倫理学」の基本的な枠組みを分析し，道徳的判断と法的判断との論理的構造を明らかにしなさい。 留意点： 「同感（同感情）」、「当事者—観察者」，「適宜性」，「是認・否認」，「称赞・非難」等々の主要な概念を丹念に分析すること。
レポート課題2	「自己支配（自己規制）」の徳に関して，①その徳としての特質を明らかにし，②スミス倫理学・哲学における「自己認識」の意義を論じなさい。 留意点： ①「慈恵」，「深慮」，「正義」の3つの徳との関連と相違を明らかにし，②自己「是認」，自己の行為の判定の問題との関連で，「胸中の偉大な神人」の概念の位置を示すこと。